

# 会場の概要

## ① 岸城神社 岸和田市岸城町 11-30



岸城神社の境内地は当時の岸和田城主、小出秀政によって隣邑に鎮座していた牛頭天王と、岸和田城築造以前に当地で祀られていた天照大神と八幡神が併せられ成立しました。

その後、天照大神は、天照太神小社として別の境内(後の神明門付近)に祀られ、牛頭天王と八幡神とは同境内に祀られて御宮と呼ばれておりました。

また、同境内には宮寺・日光寺が置かれていました。

しかし、慶応四年に出された神仏判然令に伴い、宮寺・日光寺は廃寺となり、牛頭天王社と八幡社を合祀し、岸城神社と改称されました。

この頃、それまで神明門にあった神明社は岸城神社境内へと移され、現在に至ります。

《選定理由》

岸和田城の歴史とともに歩んできた神社で、だんじり祭の際は14台のだんじりが宮入する有名な神社のためです。

## ② だんじり会館 岸和田市本町 11-23



## 会場の概要

全国に知られている「岸和田だんじり祭」は江戸時代中期に始まり、300年の伝統を誇ります。岸和田だんじり会館はそんな祭の長い歴史や迫力を目の当たりにできる施設です。館内のイベント広場では、実物のだんじりと27面のマルチスクリーンによる映像で祭の熱気と迫力をリアルに再現しています。天保12年（1841）に製作され、幕末から平成まで実際に町内を曳航されていた旧紙屋町のだんじりも展示されています。紀州街道の古い町並みを再現し、だんじりの原点をわかりやすく紹介しているコーナーや祭の花形である大工方の気分を味わえる体験コーナー、祭りの仕組みやだんじりの飾り、だんじりばやしで使われる楽器類などを間近で見られるコーナー、だんじり大工と彫物師の匠の技を解説する技・匠資料館など見どころがいっぱいです。

### 《選定理由》

だんじりを一年中体感できる観光施設で多くの来館者があり、今回の事業ではイベントスペースを借り、屋内でブースを設置できます。

### ③ 五風荘 岸和田市岸城町18-1



大阪府岸和田市にある近代和風建築と回遊式日本庭園です。岸和田城二の曲輪の「新御茶屋」の跡地に旧寺田財閥当主家別邸として建設されました。1998年に国の登録有形文化財に登録されたものの、指定管理者制度導入を機に、2008年岸和田市指定有形文化財に指定されました（これに伴い国の登録は抹消）。正門は、奈良東大寺塔頭中性院表門を移築したものです。

### 《選定理由》

国の登録有形文化財にも登録されるほどの建物で子どもたちにとっては今の時代になかなか見ることのできない施設のためです。

### ④ 岸和田城 岸和田市岸城町9-1

## 会場の概要



伝承では、建武新政期に楠木正成の一族、和田高家が築いたといわれています。

天正13年（1585）、羽柴秀吉は紀州根来寺討滅後、叔父小出秀政を城主とし、秀政によって城郭整備され、天守閣もこの時に築られました。小出秀政・吉政・吉英、松平(松井)康重・康映をへて寛永17年（1640）、岡部宣勝が入城(6万石、のち5万3千石)。以後、明治維新まで岡部氏13代が岸和田藩を統治しました。

天守閣は文政10年（1827）に落雷で焼失、維新期には櫓・門など城郭施設を自ら破壊したため、近世以前の構造物は堀と石垣以外には残存していません。

現天守閣は、昭和29年に建造された3層3階の天守です。本来は5層天守であったことが絵図などで確認されています。城跡は昭和18年に大阪府指定史跡となりました。

平成19年4月1日からは、観光施設として岸和田城ウエディングをはじめ、多聞櫓・隅櫓をギャラリーや各種イベントに使用するなど、観光振興の拠点として活用しています。

### 《選定理由》

岸和田市のシンボルですが、焼失したことやその原因など知らないことも多くあると思います、この機会に学んでいただくためです。

### ⑤二の丸広場 岸和田市岸城町7-22



岸和田城の天守閣に繋がる道にある広場です。広場内には当時の二の丸御殿に見立てた大きな建物のトイレや、歴史、文化、観光情報の発信などを行う岸和田市二の丸広場観光交

## 会場の概要

流センターが設置されています。

近年、芝生化され訪れる人の一層の憩いの場所となっています。親から子へ思い出が語り継がれるマツ林があり、春ごろになると定期的に様々なイベントが行われます。

### 《選定理由》

岸和田で暮らす人がよく訪れ、親世代と子どもの世代で印象が変わる場所で親子の話題となる場所だと考えたからです。

### ⑥杉江能楽堂 岸和田市岸城町 6－10



杉江能楽堂は、大正6年に旧岸和田城内にあった能舞台の橋懸（はしがかり）を賜り建立されました。現存する大阪府下最古の能舞台で、国宝に指定されている「西本願寺北舞台」の形式を踏まえたひなびた舞台で、前庭の白州と三本の地植えの松、舞台を取り囲むようにL字型に別棟の見所（観客席）が設けられています。

舞台と見所が別棟であることから、四季の風を肌で感じることができ、「能」本来の野外で演じられた頃の趣の一端を楽しむことができます。

### 《選定理由》

大阪府下で現存する最古の能舞台ですが、子どもたちにはあまり知られておらず、この機会に見学し、知っていただく機会とするためです。